

第2回東沢小学校学区再編検討委員会会議録

- 1 期 日 平成27年9月28日(月) 19時00分～20時00分
- 2 場 所 東沢活性化センター
- 3 出席委員 佐々木(和)委員長、齋藤(亨)副委員長、佐々木(賢)委員、
佐藤委員、鈴木委員、登坂委員、齋藤(忠)委員、情野委員、
後藤委員
- 4 欠席委員 高橋(聡)委員、佐々木(哲)委員、高橋(郁)委員
- 5 事務局 緒形課長、有坂主幹、高橋主査

6 会議経過

緒形課長の進行で進められ、佐々木委員長のあいさつにより開会された。

7 協 議

佐々木委員長が議長となり、次の協議を行った。

(1) 統廃合の必要性について

はじめに、事務局から前回の資料に加え、次の資料を配布し説明した。

- ① 山形県内市町村ごとの小学校数の推移(平成27年度確定版)
- ② 小学校児童数・学級数推移予想表(平成27年5月1日現在)
- ③ 地域活性化の拠点として学校を活用した地域づくり事例調査(総務省発行)
- ④ 白鷹町鷹山小学校の再編状況資料
質疑等なし。

次に、前回の委員会(7/13)から約2月が経過し、様々な場面で意見交換した状況も想定されることから、各委員の考えを述べてもらうこととした。

委員: 地域と地域の中の学校として考えたとき、学校がなくなるというのは非常にさびしいと思うが、学校はあくまでも子供たちのものということが大前提でなければならない。運動会でも学校行事は20人を欠けると成り立たなくなってくる。他の町では1人になるまで学校を設置したということもお聞きしたが、マンツーマンでの教育も確かに良いこともあるだろうが、何かを競う、発表するというのを考えたとき、疑問に思う。子供たちのことを考えたとき、統合に賛成である。

ぜひ、統合に向けて話を進めていただければと思う。

委員: 7月22日に母親方の集まりがあり、その際にその場をお借りして意見を伺った。参加人数(7名)の関係もあり、東沢全体の意見とは言えないが、参加者全員が統合に賛成であった。幼稚園が美郷幼稚園に通園していることもあり、具体的には小松小よりは中郡小の方が良いのではという意見があった。運動会にしても学校行事で人数が少ないのはいかがなものかという意見もあった。

小学校から中学校に変わった際、社会性を培う点、通学路の問題等不安はあるが、早く統合を進めていただきたいとの意見があった。

委員：現状の小学校の生徒数の減少を考えれば、近い将来統合を考えざるを得ないという認識は地域の方々もしていると思う。ただ、我々から見ると、統合を考えたときに、大きな学校に行くしか選択肢がないのかという思いがある。町の中で、大規模校もあり、中規模校、小規模校もあり、いろいろな形態でうまくやっていく方法はないのかとも思う。

町の他の地区から東沢小学校に児童を集めるという考え方もあるのではないかな。

委員：他の地区から来てもらうというご意見もあるわけだが、現実的には難しいと思われる。子供たちの現状をみると、クラブ活動もできない、スポーツのチームも組めないというのはかわいそうだ。学校がなくなるということでは、学校跡地の利用方法も考えて、子供たちの成長のために1日も早く統合すべきではないかと思う。

委員：さまざまな場面で意見を伺ってみたが、やはり統合した方が良いのではという意見であった。若い方々はまだピンときていないようだが、考えていかなければならないのではないかと思う。

委員：学級集団の理想は1クラス20人前後と思うが、東沢は極端に少なすぎることから考えて、統合せざるを得ないと考える。選択肢はそれしかないと思う。現在わが子の同学年はいない。子供は「小学校へは行かない」。と言っている。同級生がいないことで周囲の方々から「かわいそう。」と言われていることを聞いている。「自分はかわいそう。」なのだ。本来なら1年生として希望にあふれている時期のはずなのに、まったくそれが無い。親として非常にかわいそうである。

委員：子供は1人が美郷幼稚園にバスで通園している。園児は80名ほど。毎日楽しく大人数の中で過ごしている。親としては一刻も早く統合を進めていただいて、大勢の中で、いろいろな選択肢を選べる環境であってほしい。

委員：他の委員からの様々な意見を聴き、深刻な内容もあった。かつて東沢保育所を統合する際に、当時の保護者のみなさん、若い方々に意見をいただいたが、あの当時、今後の児童数減少を考えたときに、このままの体制では無理とのことで、中郡幼稚園との統合に至り、いずれは小学校にも同じことが起きうることは予想できていた。現実的にここまでくれば、選択肢は限られてくると思う。決断すべき時期であり、統合やむなしと考えるがどうか。

統合することにあたり、3点考慮しなければならないと思う。1点目は子供を優先に考えなければならないこと。先ほどの意見にもあったように、子供に要らぬ心配をさせぬようにしたい。2点目は、将来学校が地域からなくなること考え、地域と子供との関わりを、時間をとって十分に話し合いながら、地域に与える影響を最小限となるよう進めていかなければならない。3

点目は、どこと統合するかということになるが、後々のことを考えると小松小学校と統合すべきと思う。現在子供たちは美郷幼稚園に通園しているが、子供は新しい友達にすぐに慣れるし、小松小学校は朴沢小学校を受け入れてきたという素地と長い歴史がある。子供たちのためにより良い方向に進んでいってほしい。

議長：皆さんから他に意見はございませんか。

中学校や後々のことを考え、小松小学校を視野に入れて考えていくということになるでしょうか。

委員：やはり他の地区から子供を受け入れるということは、現実的ではないのではないかと。

議長：今後のスケジュールはということになりますが、事務局どうですか。

事務局：12月ごろには、3回目の委員会開催となるかと思いますが、地域の方々の声としてこの検討委員会を持ち、教育委員会に対し地区の意見として提出いただき、それを受けて、教育委員会ではその内容を最大限尊重させていただき進めていくことになると思います。次回の委員会に、統合の意向、統合相手、統合時期等について検討をすすめていただければ、具体的な報告書案についてご検討いただけるのではないかと考えています。

また、地区の意見として確定させるため、懇談会などが必要なのかどうか、検討いただければと思います。

委員：委員会内の意見としては、今日のこの会議で出た意見で問題ないと思うが、前回東沢保育所の統合の際に、「委員会で統合の結論を出す前に、地域住民の意見をもっと聞いてほしかった。」という意見があった。おおかた我々の話し合いは土台ができたわけだが、これらを取りまとめる前に、地域の方々に意見を伺う機会を設けてはいかがか。

議長：地域から学校がなくなるという大きな問題である。地域の方々の声を聞くということでしょうか。

事務局：懇談の持ち方ですが、地域の方々とPTA保護者の方々と一緒の会で良いですか。

委員：PTAは統合について話し合う機会がこれまでもあり、すぐにでも統合の立場で意見がほとんどまとまっている。懇談は一緒でよい。

議長：小学校は地域づくりの中心だった。学校からも地域に対し打てば響くような協力をいただいていた。

委員：各地区でも検討が行われているが、東沢地区だけでも最短で統合するとすれば、いつの時点で統合できるのか。

事務局：この年度で相手校まで決定したとして、委員が言われたように、地域と子供とのかかわり方、相手校との協議もでてくると思う。統合のスタイル、仕方によっては2年ぐらいかかるかと思います。

委員：最短で2年という起算は平成28年度から2年ということか。

事務局：そう思われます。早ければ統合は平成30年度と見込まれます。

委員：統合まで最短で2年を要するとすると、統合は平成30年度。児童数の推移からみたとき、平成30年度の児童数は予測で15名であり20人を割ってくる。統合まで少人数での状態となるわけだが、町のケアも必要になると思う。

議長：この検討委員会の学校への報告などはなされるのか。

事務局：ここで協議された内容については、学校にもお知らせします。

議長：地区懇談会の開催だが、11月ごろ開催ではどうか。感謝祭後の日程で調整し、夜間の開催としてはどうか。

全委員：異議なし。

※ 開催日については、委員長と事務局で調整の上、期日を設定することとした。

※ 懇談会の開催は、委員長名で地区全世帯に個別に通知を出すようにする。

(2) その他

次回委員会については、懇談会の意向を踏まえ、本日協議あった内容について精査したものを本委員会の意見として確定する予定とする。

開催期日は、委員長と事務局で調整し設定することとした。

閉会（20時00分）